

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂農林高等学校

学校番号 37

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「至誠勤労・質実剛健」及びスローガン「いのちを育み そしていのちから学ぶ」の下 (1) 夢の実現を目指す生徒一人ひとりの良いところを見つけ、励まし支える教育を推進する。 (2) 広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇学校運営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	① アンケートの結果、学校運営全般に対して生徒・保護者双方から高い評価を得た。一方、情報不足が原因で保護者の評価が伸び悩んでいる項目もあり、積極的な情報提供が必要である。 ② 校内の優れた学習環境を活かすため、標示を工夫し、生徒の学習の定着と帰属意識の高揚及び学習成果の発信に役立てたい。 ③ 職員の健康診断における要医療・要精検の割合が高いため、校務の整理、多忙化の解消に努め、職員の心身の健康増進を図る。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 積極的な情報発信、広報活動を推進する。 ② アクティブラーニングを踏まえて授業改善を推進する。 ③ 農場、実験実習室、校内樹木・庭園・花壇等の指標を充実させる。 ④ 諸会議・委員会の整理統合など校務のスリム化を図るとともに、時間外勤務時間の短縮の啓発を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、農場部、各学科をはじめ、校内の各分掌等において具現化し実施する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① ホームページのこまめな更新、効果的なメール配信、報道機関への積極的情報提供などの推進 ② パフォーマンス課題とルーブリックによる評価手法の全校的な取り組みへの発展 ③ 圃場・温室・動物舎等の栽培・飼育計画表、実験実習室の室名、装置・設備の説明標示、樹木名の標示、庭園・花壇・木材遊具等の作品紹介標示を整備する。 ④ 諸会議・委員会を整理統合など業務量の縮減と時間外勤務時間の縮減の推進	① 学校HPの更新頻度の増加、保護者のメール登録率維持(95%)、メール発信情報の精査と件数の増加、新聞等掲載件数の増加(100件) ② 普通教科におけるパフォーマンス課題の導入(導入教科数) ③ 栽培・飼育計画表、室名標示、装置等の説明標示、樹木標示、作品紹介標示の整備(100%) ④ 委員会等の編成見直し、「8のつく日」の完全実施、「ノー残業デー」の設定実施、退勤簿の入力徹底	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 各科毎で更新されているが部活動では消極的である。報道機関へのアピールはできている。 ② 教務部中心に取り組まれている ③ 農場部や各科で取り組まれている。 ④ 働き方改革等、勤務時間の見直しを検討している。	① 報道機関での取り上げ回数は微増している。 ② アンケート結果、生徒・保護者への理解が得られていない。 ③ 大きな改善が見られなかった。 ④ 職員の意識が向上し、具体的な方策がとられた。	A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	・教務部によるHPの活用、またメール配信の活用など学校からの情報発信について改善された。 ・アンケートの結果、授業改善の効果が浸透していないと感じる。授業公開週間等を積極的に活用できるようにしたい。 ・働き方改革等、職員の勤務時間に対する意識は向上している。職員の共通理解を図りながら具体的な方針を作成する。	
12 来年度に向けての改善方策案	・学校全体で挨拶運動に取り組む。 ・部活動の活動等の見直しを図り、働き方改革を推進する。 ・GAPの取り組みを通して農場全体の整備に取り組む。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導、研修	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果	平成28年度学校アンケートより ・教え方や説明がわかりやすい…低下	

果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を伝えている・激減 ・考える時間、グループ活動の時間がある・上昇 平成 29 年度一次選拔出願状況より ・学校全体として募集定員を上回る応募数 ・すべての学科が上回ったわけではない 																						
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自他の課題に主体的に挑戦する力を育てる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 記録、要約、説明、発表を取り入れた授業（アクティブラーニング） (2) 「何を学ぶか（本時の目標）」 「どのように学ぶか（形態）」 「何ができるようになるか（パフォーマンス）」 の実践 2 他の分掌との連携を図り円滑な学校諸行事の運営 3 重要書類の整理と学籍簿等の記載方法のマニュアル検討 4 魅力ある学校の情報発信 																						
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	各部との連携を図った組織体制 外部組織（農教研総合研究、授業改善委員会）との連携																						
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																						
<ol style="list-style-type: none"> (1) 職員研修や公開授業の実施 (2) 授業改善の取り組み結果を次年度の指導計画、シラバス、単元計画に反映させる（1 月次年度計画書の提出） (3) 行事については慣例化せず、十分な検討を重ね実施する (4) e 教務の運用方法と指導要録の書式の統一を図る (5) HP、学校案内、プレゼン資料の刷新 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 職員の意識（参観率）と生徒の評価（授業アンケート）は向上したか (2) 授業改善は年間指導計画、シラバス、単元計画に現れているか (3) 行事が円滑に運営できたか。実施後のアンケート結果が良好であるか (4) 統一・正確・省力の観点での評価は良好か (5) 中学生の反応、オープンキャンパス、一日入学、選拔出願者数に現れているか 																						
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																					
<ol style="list-style-type: none"> (0) 円滑な学校行事の企画・運営 (1) 授業アンケートによる評価 (2) 年間指導計画、シラバスに準じた授業の実施 (3) 変則考査、オープンキャンパス、学期制の見直し (4) 成績処理、学務処理の正確さと省力化 (5) ホームページの充実、学校案内の刷新 	<ol style="list-style-type: none"> (0) 各分掌との連絡調整 (1) 1 年生は本校の授業をどのように感じているか (2) 実践状況 (3) 実施後のアンケート結果等 (4) 検討の回数と情報発信 (5) HP、学校案内の内容と効果 	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																				
A	B	C	D																				
A	B	C	D																				
A	B	C	D																				
A	B	C	D																				
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○関係分掌との連携により学校行事を円滑に行うことができた。 ○課題となっている事項（学期制など）についての提案や検討に組み組みより良くするための改善が出来た。 ○ホームページや学校案内、オープンキャンパスでは本校の情報発信がしっかりできた。 ●教授法（アクティブ、わかりやすい、工夫された授業）について、生徒の評価を改善すべく対策が分掌としてとれなかった。 ●「働き方改革」を受けての改善ができなかった。 		総合評価 A B C D																				
12 次年度に向けての改善方策案	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業改善として、「本時の目標」「始業、終業時のあいさつ」「研究授業」をキーワードとした取り組みを行う。 (2) 「高校生ための学びの基礎診断（仮称）」、「大学入学共通テスト（仮称）」に向けて、カリキュラム、授業形態からの改善に取り組む。 (3) 働き方改革を受けて、時間外に及ぶ会議の改善について取り組む。 																						

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部、教育相談
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	平成 28 年度学校アンケートでは保護者・生徒ともに「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」項目の指標が低い。また保護者はいくつかの項目で取り組みの状況が「わからない」と答えている。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考え行動し、自らの夢に挑戦できる姿」の具現に向け、継続的な生活指導を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①命を守り生活を守る <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全の徹底（道路交通法を厳守する） ・生活安全の徹底（スマホ・ネットの使い方・情報モラル） ②生徒の自立を促す生徒指導 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的自立：時間を守る・身なりを整える・元気な挨拶をする ・精神的自立：物事の善悪を判断できる、思いやりの心、高い人権意識
5 重点目標を達成するための	学科・学年会との連携、および教育相談組織の活用

校内における組織体制			
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①交通とネットワークについて、ルールとスキルを身に付けさせる。 ②時間・身だしなみ・授業規律・問題行動等の未然防止と対応 ③真に生徒を大切に作る指導姿勢と、いじめ・人権に反する言動を見逃さない。 ④教育相談を機能させ、生徒個人および集団のよりよい学校生活を実現させる。(SCの活用) ⑤生徒の自主的な活動の中で、規範意識の向上と問題行動等の未然防止に取り組む。		①自他の安全を意識した具体的な行動面の変容。(交通事故件数0を目指す、情報モラル違反事案0を目指す。) ②欠席総計(1200回以下)遅刻総計(300回以下)、身だしなみの変容、問題行動事案件数(20件以下)。 ③クラスメイトや教員、地域社会の方とのコミュニケーション場面などで、人権意識のある態度ができているか。 ④必要な相談が確実に行われたか。相談の存在が充分広報できたか。 ⑤生徒会・MSリーダーズ等を中心とした活動と取り組み状況が活発になっているか。	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
①各講話・講習の実施と街頭指導 ②全職員による登校指導と遅刻指導の実施 ③生徒理解に基づく生活指導の展開 ④アンケート等を活用して生徒状況の把握 ⑤生徒会・MSリーダーズの取り組み状況		①交通事故・情報モラル違反事案の減少 ②のべ遅刻数 ③問題行動事案件数 ④調査の実施と活用 ⑤活動による模範意識の向上	A (B) C D A B (C) D (A) B C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒会・MSリーダーズ・部活動を中心に挨拶運動を行うなど、生徒の自主的な活動が昨年度より活発化している。 ○挨拶についての意識調査を実施し、生徒の挨拶に対する意識を把握することができた。 ○担任を中心としたきめ細かい指導により、昨年度と比較して問題行動事案が減少している。また、全体的に身なりを守れる生徒が多くなった。 ●生徒間トラブル等人間関係の苦手な生徒が多く、教育相談の充実が必要である。(9月に不登校生徒の複数発生しており、組織的な対応が必要である。)		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 生徒会・MS・部活動を中心とした自主的な活動を積極的に行い、学校全体を巻き込んだ挨拶活動を実施することで、生徒の基本的な生活習慣の改善に繋げていきたい。 教育相談の充実を図り、生徒にコミュニケーション能力を身に付けさせることで、不登校の防止と全ての生徒が安心して学校生活をおくることのできる環境を整備するよう指導・支援が必要である。			

2 評価する領域・分野		進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		学科試験が行われない就職先を選択したり、AO入試等で早期に安易に進路先を決めてしまう生徒が少なからず存在している。キャリア教育のより一層の充実が求められている。	
4 今年度の具体的なかつ明確な重点目標		「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。 ①あらゆる機会を通して、基礎学力を確実に身に付けさせる。 ②主体的で意欲ある進路活動に結びつかせるための「選抜ポイント」意識させ、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設ける。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制		・学年会、学科、各分掌と協力・連携して実施する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①あらゆる機会を通して、基礎学力を身に付けることの重要性を認識させる。(全学年) ②個々に応じた具体的な進路目標を持たせるために、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設定する。(1年生) ③学年末には具体的な進路目標を持たせることができるようにする。(2年生) ④個々に応じた進路指導を充実させ、安易な進路を選択することのないよう努める。(3年生)		①進路補習、SPI学習会、面接指導等を成果に結びつけることができたか。 ②到達目標を明確にし、進路に関する思考・表現活動に働きかけたか。 ③「選抜ポイント」を意識させながら、より具体的な進路目標を持たせることができたか。 ④適性、学力、家庭環境など様々な観点から判断し最も望ましい進路選択をさせることができたか。	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
①SPI学習会 適性検査対策と同時に国語、数学の力を養う効果が大きい。 ②進学学習会		①学習会参加前と終了時の生徒の姿 ②英語科：英検2級に2名合格	A (B) C D A (B) C D

<p>少人数だが、最後まで挫折せず取り組めた生徒が得るものは大きい。</p> <p>③進路情報の提供 求人票、指定校一覧のデータ化と全校配布、過去の出題事例のデータ化による利用促進</p>	<p>③3学年HR担任を中心に、有効に利用することができたか</p>	<p>A B (C) D</p>
<p>11 成果・課題</p>	<p>・SPI学習会・進学学習会ともに、きちんと参加できた生徒は少数であったが、成果を得ることができた。次の機会に向け、より効果的な実施方法について引き続き検討したい。</p> <p>・様々な進路情報を校内ネットワーク内に提供している。より多くの職員に利用して頂くために、利用方法についての情報提供に務めたい。</p> <p>・進路目標の実現に向け、どのような「加茂農林高校の生徒」に育てていくか、についての議論と共通理解が必要ではないか。</p>	<p>総合評価 A (B) C D</p>
<p>12 次年度に向けての改善方策案</p> <p>【生徒に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 常に進路目標を意識するよう働きかけるとともに、進路目標の実現のために学習及び学力向上の必要性を説く。 コミュニケーションの基本である「挨拶」の重要性を常に意識させる取り組み、働きかけを行う。 進路意識の向上を図るために、様々な情報を提供する。 <p>【教員に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正確で利用しやすい進路情報の提供に努める。 		

<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇特別活動部</p>	
<p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事に積極的に参加する生徒が多くなってきている。 女子の運動系部活動の登録者が男子に比べ少ない。 ボランティア活動への参加する生徒数に減少傾向が見られる。 <p>○部活動の活性化の為、女子の運動系部活動への入部を勧めるとともに全員加入に対応でき、安全で充実した活動が継続できる部活動の体制の検討（指導者・施設・費用等の適切な配当）</p>	
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>(1) 部活動の活性化 運動系部活動への参加を勧めるとともに、文化系部活動において実際に活動をしていない部員を減らす新しい活動内容・指導体制の検討・実践を促す</p> <p>(2) 学校行事の更なる工夫・充実と検討</p> <p>(3) ボランティア活動の推進</p>	
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動部を中心に教務部、生徒指導部、進路指導部、渉外部、農場部、学年会と協力・連携して実施する。 部活動の活性化については生徒の部長会を通じて意識付けをすると同時に、職員の部顧問会議、職員会議で共通理解を図って実施する。 	
<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	
<p>(1) 学校行事の企画・運営をする上で生徒の主体的活動の機会を増やすとともに、その運営を通じて委員会活動の活性化を図る。</p> <p>(2) 部活動の活性化を図る。 部員数の多い文化系部活動の新しい活動内容、指導体制の検討（部顧問会議・部長会）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生：1年学年会と連携し、部登録までの見学・体験期間の指導体制を整える。 「部活動の日」、職員室前の部活動ホワイトボードの有効利用。 部長会の有効な運用、夏休み前等の部活動激励会の実施。 <p>(3) 地域と連携したボランティア活動に積極的に参加を促す。</p>	<p>(1) 各行事・各委員会活動に生徒自ら積極的に取り組むことができたか。生徒会執行部が前面に出て活動できているか。（アンケート）</p> <p>(2) 部活動の定期活動状況調査（部長会）、部活動についての意識調査（生徒・教員）、活性化につながる取り組みができているか。（部活動出席率・アンケート）</p> <p>(3) ボランティア活動の参加状況（参加生徒数）</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p>	<p>9 評価視点</p>	<p>10 評価</p>
<p>(1) 行事や各委員会活動に生徒会を中心に積極的に取り組み、生徒の意見で諸行事をこなしている。</p> <p>(2) 部活動の活性化を図るためのいろいろな試みを実施している。（1年生部登録の方法の改善、壮行会、激励会の工夫、部長会の有効な運用）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各行事実施後の生徒・職員のアンケート結果 部長による毎月の活動報告、出席簿の提出状況での把握 部顧問、部長アンケート結果 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>

(3) ボランティア活動を担当顧問がクラスに案内する。	・ボランティア活動の参加状況の把握	A B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> 恒例の学校行事の運営、また壮行会の工夫、留学生の歓迎会など新たな取り組みも生徒主導で行えたことは大きな成果ととらえたい。専門委員会の活動も新しい取り組みを企画し、学年会、学科集会、掲示板などを通じて全校への呼びかけも行った。生徒の誠実な取り組みも大きい。担当の先生の丁寧なご指導のおかげと感謝します。 懸案となっていた部活動関連の表彰規定を見直し、今年度から実施した。 部活動は、運動部の地区総体等で成績が上がっており、インターハイにも4名出場、文化系でも吹奏楽部、フラワーアレンジメント部をはじめ、美術部も顧問の増員を有効に活かし新たな部門を設定し活動している。今後も部活動活性化とともに、効率のよい活動のあり方を検討したい。 	総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ①恒例の学校行事をより有意義なものにするために「今まで通り」でよい事、改善すべき事をよく見極め、新しいアイデアを出し合って行事の質を高める（特に緑園祭の運営組織、クラス発表のありかた） ②「あいさつ ファースト！」と生徒自身が意識できるような効果的な方策を生徒主導で検討・実践するように促す。 ☆具体的な方策：4月新学期スタートダッシュできる準備・部活動を中心に、上級生が率先して行う、挨拶運動を形式的にならないよう改善：少人数、複数箇所で行う、生徒間での呼びかけ（場合によっては生徒指導との連携）でイヤホンでの音楽試聴を制限する。 ③働き方改革に伴う部活動の休養日の設定、活動時間の規約の遵守。部活動に関わる予算の適切な運用等、関連部署と連携し適切な方針を提案、学校全体で共通理解をはかって実践する。 	

2 評価する領域・分野	◇農場運営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・本校が農業に関する実践的な能力や態度を育てていることや資格取得に対する指導を積極的に行っていること。また、地域との交流も盛んであることは、多くの方々に理解されている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域と一体となったプロジェクト活動の推進 ◇地域農業経営者との連携活動の推進 ◇実験実習の内容と指導方法の工夫 ◇安全教育の徹底・施設設備の管理 ◇農場の環境整備	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・農場部組織を管理部と教育研修部に構成し運営を図る。 ・各科、農場が協同し地域と連携を実施する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 地域課題の発掘と地域連携 (2) 各種農業研修の充実とキャリア教育の推進 (3) 教科指導の情報交換会を実施 (4) 農場の安全管理・操作マニュアルの徹底 (5) 作付け等の表示看板等の設置（長期計画）	(1) プロジェクトの内容の充実と発表会。地域へフィードバック。 (2) 井戸畑会議、指導農業者との交流実施。研修先からの意見と感想及び発表会 (3) 生徒の様子と情報交換会の実施状況 (4) 生徒・職員に事故や怪我等がない。実習製品の衛生管理や施設設備の管理と使用マニュアルの作成 (5) 整備の進展状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 地域課題を取り入れたプロジェクト学習等の実施 (2) インターンシップ、井戸畑会議等への参加や研修報告会の実施 (3) 教科指導や生徒指導での意見交換 (4) 農場での安全管理 (5) 作付け等の表示	プロジェクトテーマ及び活動状況 参加状況と報告会 意見交流の実施状況 怪我等の発生件数 表示整備の進展状況	A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	全学科で54テーマのプロジェクト活動を行い、約10テーマについては、郊外との連携をすることができた。竹プロジェクトの研修会を行ったが、その後、活用できなかった。 インターンシップについても、夏から秋にかけて各科実施、科内での報告会も実施できた。 大きな怪我や事故もなく、安全に配慮した実験実習ができた。 表示については、新たな表示もあるが、まだ、表示不足の所もある。	
	総合評価 A B C D	

12 来年度に向けての改善方策案

プロジェクトについては、地域を巻き込み地域に還元できるテーマや、学科を超えてコラボできるテーマの設定も今後検討。

インターンシップの実施時期は、今年度同様各科で設定する。

実験実習では、安全第一で行う。

表示の掲示やGAPの環境づくりを行う。

近東大会が岐阜県開催であるため、準備運営など専門科職員の協力体制。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月23日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒指導全般に関するアンケート結果は良好だと思うが、いじめや体罰に関する結果は公表されているのか。学校の成果をきちんと地域や保護者に理解してもらえる努力をしてほしい。
- ・アンケートの結果、HR活動の成果があまり見られないようですが、活動の趣旨や意義を生徒に説明してほしい。
- ・加茂農林高校の生徒は、各学科で学んでいることなど、持ち味を生かして地域とよく連携しており、頼もしい。
今後も地域の課題解決の一翼を担う活動や研究を続けてほしい。
- ・生徒の話などを聞くと、学校や学科に誇りを持ち一生懸命学習してきた様子や、加茂農林高校に入学して良かったという強い思いを感じることができ、加茂農林高校が地域にとって本当に必要な学校であると再認識できた。
- ・生徒及び保護者等を対象としたアンケートの結果を見ると、全般的に極めて高い評価であり、特に、「本校に入学できて良かった」という生徒と「子どもは喜んで学校に行っている」という保護者が、ともにほぼ100%に迫っている。素晴らしい結果であり、様々な教育活動が成果を上げていることが頭れている。
- ・アンケート結果や生徒の様子を見ると、教員の頑張りが窺い知れるが、加重負担にならないよう、業務を精選することも視野に入れながら学校運営してほしい。